

「探究学習」
開発・推進

追跡レポート

育てたい生徒像と個々の行事を 往還的に吟味し、指導の全体像を描く

探究学習及びアクティブ・ラーニング（以下、A L）の開発とともに、教育活動全般の改善に取り組み龍谷大学付属平安中学校・高校。今回は12月に行われた、育てたい生徒像の言語化と、それと並行した学習のコンセプトの具体化をレポートする。

12月●学習のコンセプトの具体化

各行事を探究学習・A Lの観点で検討する

2016年秋から校内のカリキュラム・マネジメント委員会で探究学習・A Lの検討を続ける龍谷大学付属平安中学校・高校。これまでの議論を通して「授業、行事を連携させて、生徒自身に『学びの文脈』を描かせる」「教師が手を離しても学び続ける力を育む」など、探究学習・A Lの意義や目的を校内で語り合ってきた。また、17年度から探究学習・A Lを実際に導入するために、できるだけ既存の教育活動を生かしながらプログラムを開発していくことが方針として確認された。

12月には、各行事・取り組みの内

容と目的を改めて整理し、育てたい生徒像を3年間の成長段階にに応じて具体化し、さらに事前・事後指導を含めた各行事の改善の余地を確認しながら、探究学習・A Lのブランドデザインを描いていった。

一つひとつの行事の内容やねらいを確認する中で、「この2つの行事は、育みたい力が共通しているから連続性を持たせたい」「似た行事が2年続けて行われるが、育てたい生徒像を踏まえると、ねらいは明らかに違う」などと、行事に対する理解が教師の中でさらに深まっていった。そして、各学年の行事と、育てたい生徒像を照

らし合わせることで、学年別の指導コンセプトも明らかになっていった。ゴール（育てたい生徒像）とプロセス（個々の行事）の関係を明示しながら、同校の探究学習・A Lのデザインは、今後「教科学習との連携」というフェーズへと進むことになる。



検討の場に参加する教師の顔ぶれは、学年・教科・分掌を横断するように配慮した。3年間の主な行事が、なぜ現状のような形で存在するのかを確認した上で、今後どう発展させていくべきか語り合った。

これまで取り組んだ内容

11月

学習の
コンセプトの作成

育みたい力と、その実現のための教育活動に関するキーワードを出し合い、コンセプトづくりにつなげました。

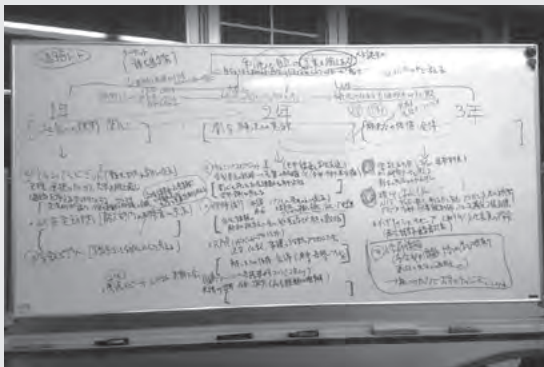
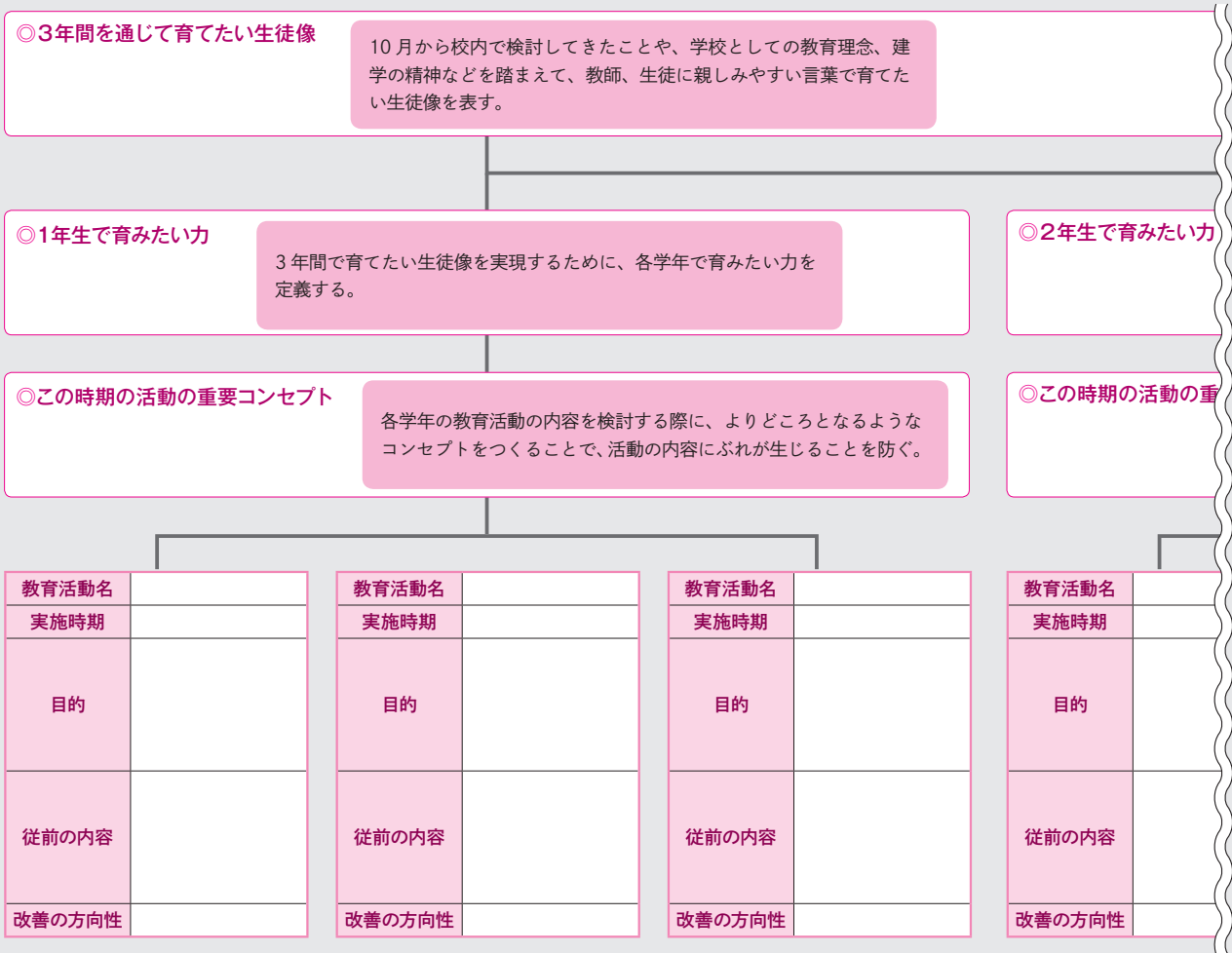
10月

学習の意義・
目的の明確化

「育てたい生徒像」を小グループで話し合うことで、探究学習・A Lの土台作りを行いました。

探究学習・A L開発のフロー

校内での検討を次のような流れで進める同校。議論の活性化のためにどのような配慮がなされているのかを、サポートスタッフとして参加するベネッセ高校営業部・若菜^{わかえ}寿美^{すみ}が解説する。



3年間の行事の内容を4、5人のグループに分かれて確認した後、それぞれのグループの検討結果を整理、統合していく作業を行った(左写真)。そして、最終的に上記のような表を使ってまとめ、校内に共有。今後は、それぞれの行事を探究学習・ALの視点で具体的にどのように改善するのか、さらに、教科学習との連携をどのように図っていくのかについて検討することになる。

今後の予定

2月

探究学習・ALの
カリキュラム決定と
その実施のための
ToDoの整理

1月

教科学習との連携を含む
カリキュラム案の
作成・検討

今回取り組んだ内容

12月

学習の
コンセプトの具体化
(どの行事で
どのような探究学習・
ALを行うのか)

各行事の内容、ねらいの確認は、4、5人の小グループに分かれて行いました。同じ行事でも、そのポイントについて語る言葉はグループによって少しずつ異なります。その差異に目を向けることで、それぞれの行事が今後どのように発展すべきかを、より多角的に考えることができました。この工程を入念に行い、教科学習との連携については、1月に検討することになりました。